

公益財団法人 放送文化基金
平成28年度 事業計画
(自 平成28. 4. 1 ～ 至 29. 3. 31)

平成28年度も基幹事業である「1助成、2表彰、3支援活動」を中心に事業を展開する。

1 助成事業

27年度に引き続き「若手研究者への助成奨励」として助成金を500万円上乗せし、総額6,000万円で放送研究の発展と研究者の裾野の拡大に取り組む。

なお、助成対象を決定した時は、その対象者とテーマを記者発表し、ホームページで公表する。また、研究成果をホームページに掲載し、広く紹介することにより、研究成果の社会還元を一層推進する。

3月の「助成金贈呈式」では、近年助成したプロジェクトの中から、視聴者の関心の高いテーマや時宜を得たテーマをとりあげ、研究報告会を行う。

予 算 6, 0 9 1 万円

〔 若手奨励として500万円を積立金より取り崩すため
全体の事業規模は6,591万円。 〕

2 表彰事業

視聴者に感銘を与えた優れた番組と、放送文化および放送技術に関する著しい貢献に対し表彰を行う。

(1) 放送文化基金賞

全国の民放、NHK、番組制作会社を対象に、広く応募を募り、番組部門と個人・グループ部門の2部門を表彰する。

「放送文化基金賞」の決定については、その受賞作品、受賞者、選考理由等を記者発表し、ホームページで公表する。

○ 番組部門

前年度に放送されたテレビドキュメンタリー、テレビドラマ、テレビエンターテインメント、ラジオの4分野の番組を対象とする。

番組の表彰（最優秀賞、優秀賞、奨励賞）計 16 本以内
個人への賞（演技賞、企画賞、演出賞等）計 5 本以内

○ 個人・グループ 部門

次の 2 分野で主に前年度に顕著な業績を挙げた個人またはグループを対象とする。

放送文化・・・放送界に新生面を拓くなど放送文化の発展・向上に
貢献した個人またはグループ 4 件以内

放送技術・・・技術の開発や放送現場での工夫・考案で効果を挙げ
た個人またはグループ 4 件以内

(2) 他の賞への参加

国際コンクールである「ABU 賞」（主催 アジア太平洋放送連合）、「日本賞」（主催 NHK）、「創作テレビ・ラジオドラマ大賞」（主催 日本放送作家協会・NHK）へ参加し、優れた番組や企画、脚本にそれぞれ賞金を贈呈する。

◎ABU 賞・・・優れた番組の表彰（ABU 賞全体へのスポンサーとして）

◎日 本 賞・・・教育に役立つテレビ番組の優れた企画の表彰

◎創作テレビ・ラジオドラマ大賞・・・優れた創作脚本の表彰

予 算 4, 653 万円

3 支援活動事業（制作者フォーラム）

放送に携わる若手制作者の人材育成を支援する施策として、全国 4 地区の制作者が組織の枠を越えて交流を図る制作者フォーラムを各地区で開催する。また、東京で全国制作者フォーラムを開催する。

予 算 998 万円

4 将来ビジョン懇談会の設置

放送と通信の連携・融合に象徴されるメディア環境の変化や視聴者のライフスタイルや価値観の多様化など、放送を取り巻く事業環境は大きく変わり続けている。こうした状況を踏まえながら、放送文化基金がその使命を達成し続けていくための将来ビジョンを検討することとし、懇談会を設置して様々な見地からの意見を伺う。

懇談会は、放送事業に対する一定の理解と見識を有する外部の人材５～６名を選任し、年間に２～３回開催する。

なお、懇談会には理事会からも一部メンバーがオブザーバーとして加わる。

予 算 １００万円

５ 広 報

事業の活動状況を広く紹介するため広報誌（放送文化基金報「HBF」）第８４号（春号）を４月、第８５号（秋号）を９月に刊行し配布する。

また、平成２７年２月にリニューアルしたホームページを使い、基金の活動全般について、迅速に、わかりやすい形で掲載する。

予 算 ５４８万円

６ 助成費用準備資金の積み立て

助成事業の安定実施に資するため、２６～３０年度の５カ年で１億円を積み立て、その後の５年間の助成事業に必要となる支出に備える。

予 算 １，０００万円